

農山漁村振興交付金
都市農業機能発揮対策

事例集

令和5年12月
農林水産省

目次

1	はじめに	3
2	都市農業に関する事業を紹介します！	4
3	交付金を活用した事例を紹介します！	5
	農業体験会の開催	
01	多摩地域都市農業振興協議会	7
02	大阪市南部地域都市農業振興地域協議会	8
03	かきつ畑プロジェクト推進協議会	9
	マルシェ等の開催	
04	一般社団法人 KOBE FARMERS MARKET	10
05	ハッピークラブ	11
06	株式会社 Tryfe	12
07	株式会社 ネイバースファーム	13
	防災協力農地の導入	
08	一般社団法人 大阪府農業会議	14
09	大阪府摂津市	15
	有機農業等の普及／農村ファンの拡大	
10	小田急電鉄 株式会社	16
11	株式会社 エマリコくにたち	17
	農的空間の創出	
12	農と親しみ江東区の共生社会を考える協議会	18
4	参考資料	19
参考1	一般財団法人 都市農地活用支援センター	20
参考2	東武トップツアーズ 株式会社	21
参考3	交付金に関する資料について	22

1 はじめに

「都市農業機能発揮対策」とは？

都市農業は、消費地の中で新鮮な農産物の都市住民への供給、身近な農作業体験や交流の場の提供、心安らく緑地空間、災害時の避難場所の提供等の多様な機能を有しており、これらの機能が将来にわたって十分に発揮されるよう、その振興を図っていく必要があります。

農林水産省では、都市農業が都市住民との共生を図りながら発展していくため、都市住民と都市農業者との交流促進の取組、都市住民の都市農業に対する理解醸成の取組、宅地と近接する都市農地からの農薬飛散、臭気、騒音、土ぼこり、土砂流出等への対策のための取組、都市の防災協力農地の防災機能の一層の発揮のための取組など、皆様の新たな取組や従来からの取組を拡充される際のスタートアップを支援するため本交付金により国から直接助成を行っています。



2 都市農業に関する事業を紹介します！

実施できる事業の内容は？

農山漁村振興交付金（都市農業機能発揮対策）では、次の取組を支援します。

都市農業機能
発揮支援事業

都市農業の**多様な機能を発揮**させるため、**アドバイザーの派遣**や**税・相続に関する講習会**の開催、都市住民の都市農業や農山漁村に対する**理解醸成・効果的な情報発信**等の取組



01 地域支援型

- ア 都市住民と共生する**農業経営への支援策の検討**や都市農業の多様な機能についての**理解醸成**、市民農園等の**附帯施設の整備**や都市農地の**周辺環境対策**等の取組
- イ 都市農業者と都市住民が直接ふれあう**マルシェの開催**等による交流促進のための取組
- ウ **防災機能の維持・強化**等の取組



02 モデル支援型

国の施策の方向性に沿った取組を、**複数の地域が連携して一体的**に実施し、当該取組を**ガイドライン化**するなどにより、各地域へ波及させる取組



03 都市農地創設支援型

都市農業者や行政機関等が連携し、都市部の空閑地（駐車場等）を活用した**都市農地の創設**や**農的空間の創出**、**地方都市の生産緑地地区の導入促進**の取組



都市農業共生推進等地域支援事業

3 交付金を活用した事例を紹介します！

交付金の活用事例の一覧

関西

02



大阪市南部地域都市農業振興地域協議会

04



一般財団法人
KOBE FARMERS MARKET

05



ハッピークラブ

08



一般社団法人 大阪府農業会議

09



大阪府摂津市

関東

01



多摩地域都市農業振興協議会

07



株式会社 ネイバースファーム

10



小田急電鉄 株式会社

11



株式会社 エマリクにたち

12



農と親しみ江東区の共生社会を考える協議会

九州

06



株式会社 Tryfe

中部

03



かきつ畑プロジェクト推進協議会

都市農業地域共生推進等支援事業

01 地域支援型

01	多摩地域都市農業振興協議会	多摩地域で都市農業に関わるコミュニティを形成！	東京都 八王子市	7
02	大阪市南部地域都市農業振興地域協議会	収穫体験を開催し都市農業の魅力を発信！	大阪府 大阪市	8
03	かきつ畑プロジェクト推進協議会	地元学校と連携し都市農業の魅力を発信！	愛知県 知立市	9
04	一般社団法人KOBE FARMERS MARKET	神戸市で若い世代を取り入れたマルシェを開催！	兵庫県 神戸市	10
05	ハッピークラブ	東大阪市産エコ農産物のマルシェを開催！	大阪府 東大阪市	11
06	株式会社Tryfe	福岡で都市農業者との交流型マルシェを開催！	福岡県 福岡市	12
07	株式会社ネイバースファーム	農園を開放し地域密着型マルシェを開催！	東京都 日野市	13
08	一般社団法人大阪府農業会議	大阪府で防災協力農地の拡大と住民に理解を促進！	大阪府 全域	14
09	大阪府摂津市	摂津市で防災協力農地の看板設置し市民へ周知！	大阪府 摂津市	15

02 モデル支援型

10	小田急電鉄株式会社	座間市で地域循環モデルを目指す！	神奈川県 座間市	16
11	株式会社エマリコくにたち	有機農業の担い手と都市農業を支える都市住民の育成を目指す！	東京都 多摩地域	17

03 都市農地創設支援型

12	農と親しみ江東区の共生社会を考える協議会	豊洲エリアで子どもたちが農に触れあう空間を創設！	東京都 江東区	18
----	----------------------	--------------------------	------------	----

01 多摩地域都市農業振興協議会



多摩地域で都市農業に関わるコミュニティ形成！



農業体験会・農業研修の様子



人形町マルシェの様子



オンラインセミナーの様子

都市農業地域共生推進等支援事業

01

地域支援型

農業体験会の開催



東京都 八王子市



事業の背景

一般社団法人畑会の活動の中心となっている磯沼ミルクファームは、八王子市小此企町に位置し、京王線山田駅や県道506号線など、各方面からアクセスしやすい地域にある。

<現状>

東京都の農業生産額が低下する中、八王子市は多種多様な農産物を生産しており、都市住民のニーズも高い。

<課題>

東京産野菜の認知度が低く、都市住民と生産者との交流の場が不足している。個々の生産者のロット数が小さく、安定供給体制が構築されていない。

取組概要

◆取組内容・効果

- ・人形町などの都心エリアでマルシェを計12回開催、八王子市内で農業体験会を計5回実施し、都市農業や食育に関する理解醸成と都市農業のファン獲得につながった。
- ・コロナウイルス対策としてオンラインセミナーを2回開催し、今まで東京農業をあまり知らなかった層に向けて都市農業の魅力を発信できた。
- ・研修事業についてHPやネット広告で情報発信を行ったところ、計20名の研修生の申込みがあり、農業に関わる人材を増やすことができた。
- ・積極的な情報発信やチラシ配布等を継続して行ったところ、体験農園の利用者が年間で10名ほど増加。農家の経営支援につなげることができた。

02 大阪市南部地域都市農業振興地域協議会



収穫体験を開催し都市農業の魅力を発信！



農業体験会の様子



試食会の様子



農園横の無人販売機



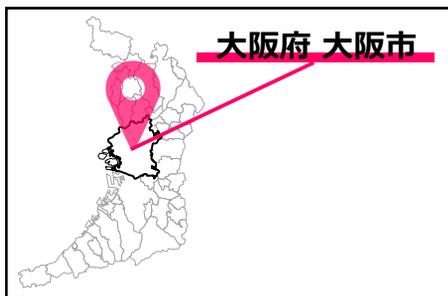
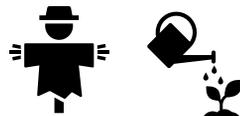
イチゴ園の様子

都市農業地域共生推進等支援事業

01

地域支援型

農業体験会の開催



事業の背景

<現状>

大阪市内の農地は、全て市街化区域に指定されており、都市住民の生活と関係の中で発展してきたところ。

<課題>

農作業にかかる堆肥などのにおい、農薬の飛散、農業機械の騒音などの課題があり、周辺住民からの理解が得にくい。

そのため、どのように住民理解を得て、都市農業を継続していくかが課題となっている。

取組概要

◆実施体制

野菜の直接販売、農業体験会で取れたての野菜を味わっていただくことで、都市農業の理解と関心を深めてもらうため、地元NPO法人等と連携。

◆取組内容・効果

- ・都市住民を対象とした農業体験会や試食会を、地元NPO法人・大阪市と連携の上、計7回開催することで、多くの近隣住民の方に参加してもらい、都市農業の機能について理解を得た。
- ・無人販売機（ロッカー）や収穫体験用のイチゴの高設栽培施設（イチゴ狩り施設）を整備することで、日常的に新鮮な野菜や果物を都市住民に供給するとともに、住民にさらなる理解の向上を図った。

03 かきつ畑プロジェクト推進協議会



地元学校と連携し都市農業の魅力を発信！



農業体験会の様子（左から田植え体験・稲刈り体験・しめ縄づくり体験）



ジャムづくり講習会の様子



地元学校に配布した取組みリーフレット

都市農業地域共生推進等支援事業

01

地域支援型

農業体験会の開催



愛知県 知立市



事業の背景

<現状>

- ・ 知立市の作付面積は田が8割、畑が2割と水稲が主体となっている。
- ・ 小規模・不整形な農地が点在しており、機械化による農作業の導入が難しい地域となっている。

<課題>

- ・ 住宅が密集する都市において、農作業に対する苦情が多く、周辺住民からの理解が得にくいという現状がある。
- ・ 農業者の高齢化や担い手不足による都市での耕作放棄地発生への恐れがある。

取組概要

◆実施体制

地元の学校運営協議会や農業委員会と連携し、地域住民による体験農場の運営や、担い手と農地のマッチングを実施する。

◆取組内容・効果

- ・ 地元の教育機関・地域団体と連携し、学生・保護者を対象とした農業体験会や農産物の加工体験（給食メニュー考案）を開催し、地域の多世代にわたって都市農業への理解が向上した。
- ・ 小中学生を対象とした農体験教室（畑de学校）を開校し、農に触れる機会を提供することで都市農地の持つ機能について周知を図った。また、耕作放棄地に対策作物（ローゼル）を試験栽培し、その加工品の活用方法を地元の高校と検討するなど、都市農業の継続モデルの実証実験を行っている。

04 一般社団法人 KOBE FARMERS MARKET



神戸市で若い世代を取り入れたマルシェを開催！



マルシェ開催の様子

都市農業地域共生推進等支援事業

01

地域支援型

マルシェ等の開催



兵庫県 神戸市



事業の背景

<現状>

- ・神戸市の面積の約6割は市街化調整区域であり、そのうち農地は1/6を占めている。
- ・農業産出額は、100万人を超える政令指都市の中で最も多い。

<課題>

- ・近年、高齢化等により農家人口は減少の一途をたどっており、若い世代に農業への関心を高めていくことが不可欠。
- ・自然豊かな街のメリットを活かすため、都市農業者と都市住民との間のつながりを作っていくことが課題となっている。

取組概要

◆実施体制

自治体や地元農業者らとの連携に加え、新しく若手運営メンバーや学生ボランティアを充実させ、運営体制を強化した。

◆取組内容・効果

- ・神戸の中心地三宮で毎週土曜日に定期開催するファーマーズマーケットに加えて、合計5エリアの地域フェアを開催。
- ・一般開催時のファーマーズマーケットに比べ、地域フェア開催時は1.2倍～1.5倍の売上となり、来場者が、2割～3割増加した。
- ・新たな地域フェアを漁港などの場所で開催することにより、新しいファンを獲得することができた。また、農家の新規出店等もあり、新規客を呼び込み通年での全体来場者を押し上げる効果も出ている。

05 ハッピークラブ



東大阪市産エコ農産物のマルシェを開催！



マルシェ開催の様子



都市住民へのアンケートの様子



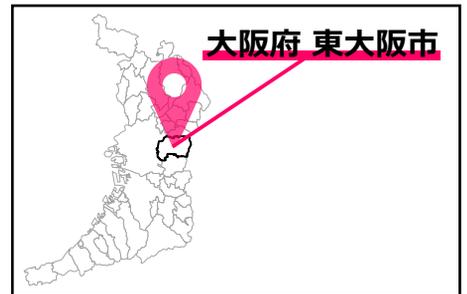
ファームマイレージ(地産地消の取組)のパネル展示の様子

都市農業地域共生推進等支援事業

01

地域支援型

マルシェ等の開催



大阪府 東大阪市

事業の背景

<現状>

大阪市に隣接する東大阪は、葉物野菜の産地であったが、市街化の進行による農地減少や生産者の高齢化に伴う輸送手段確保の困難などで市場でのロット数がまとまらず、取引価格が下落傾向にある。

<課題>

都市農業を保全し、継続するためには都市農業に対する住民理解が不可欠である。

取組概要

◆実施体制

ハッピークラブメンバーによりエコ農産物を栽培し、マルシェにおいてエコ農産物や加工食品の販売を行う。

※エコ農産物：農薬や化学肥料の使用量を通常の半以下で栽培された農作物

◆取組内容・効果

- 東大阪市産のエコ農産物によるマルシェを、ターミナル駅や緑地公園等で計7回開催した。農産物の販売だけでなく、都市農業・生産者をPRするパネルの展示や都市住民と積極的な対話を行い、都市農業の機能・魅力を多くの都市住民に発信した。
- 販売の際、都市農業に関するアンケート調査を実施し、「都市農業・都市農地を保全すべきだ」と等の回答が得られた。

06 株式会社 Tryfe



福岡で都市農業者との交流型マルシェを開催！



都市型マルシェ（福マルシェ）開催の様子



子ども向けワークショップ（やさいすくい）の様子



農業体験ツアーの様子



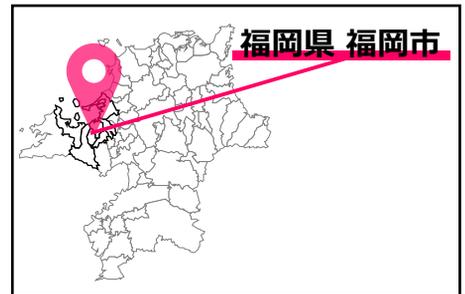
プランター栽培の様子

都市農業地域共生推進等支援事業

01

地域支援型

マルシェ等の開催



事業の背景

<現状>

- ・福岡市は、市街地から農業地域まで車で30分と立地の利点があり、都市住民へ新鮮な農産物が供給できる環境となっている。
- ・また、都市住民をターゲットにした、貸し農園や農業体験サービスを提供する農業者が近年増加している。

<課題>

- ・都市住民の多くは、市内で貸し農園や農業体験ができることを知らないため、福岡市の都市農業の認知度は低い。
- ・また、近隣に農地がありながらも、地域の都市農業者と直接交流する機会が少なく、都市農業の多様な機能に関する情報発信も不足している。

取組概要

◆実施体制

都市住民で構成された運営メンバーと地元の都市農業者が連携し、マルシェを開催した。

◆取組内容・効果

- ・都市農業者と都市住民が直接交流できる都市型マルシェ（福マルシェ）を福岡市内の4拠点で計19回開催した。（2022年4月～2023年3月）
- ・マルシェでは農産物の販売だけでなく、子ども向けワークショップを開催するなど、多世代にわたって都市農業の魅力を発信した。
- ・マルシェ来場者を対象に、都市農業者の農園に訪問する農業体験ツアー（福ベジ部）を開催した。
- ・福ベジ部の一環として、都市農業者の指導の下、ベランダでのプランター栽培やオンライン交流会を実施し、都市住民が自宅でも楽しめる農業イベントの企画に取り組んだ。

07 株式会社 ネイバースファーム



農園を開放し地域密着型マルシェを開催！



マルシェ開催の様子



農園の野菜を使ったピザ焼き体験の様子



実際に畑を耕す耕運機体験の様子

都市農業地域共生推進等支援事業

01

地域支援型

マルシェ等の開催



東京都 日野市



事業の背景

<現状>

- ・日野市では、直売や学校給食向けの生産を行う農家が増えている。
- ・コロナ禍をきっかけに、改めて地元の農産物や農業に関心を寄せる市民も増えてきており、都市農業の機運が高まっている。

<課題>

- ・日野市民を対象とするアンケートにおいて、市の特産物（トマトや梨など）を知らない市民は3割、地元の農産物を購入する頻度が月1回以下の市民は6割の結果に。
- ・一方、地元農産物を買えることを期待する市民は7割以上であり、身近で新鮮な農産物を求める市民がいる。しかしながら、それらを購入できる場所や機会が限られており、認知も広がらない状況となっている。

取組概要

◆実施体制

(株)ネイバースファームが中心となって、市内の飲食事業者と連携し、トマトを使用した商品開発及び販売を実施する。

◆取組内容・効果

- ・「ファームカミングデー」と銘打ち、農園を開放し、市民が自由に訪れることができる交流型のマルシェを開催した。
- ・地元の農業者や飲食店と連携しピザ焼き体験や出張写真館を開催するとともに、トマトの収穫体験、耕運機体験といった農園ならではのイベント企画をすることで、地域住民に都市農業の魅力を発信するイベントを実施した。
- ・市内のトマト農家や飲食事業者と連携し、市内中心地でトマトをテーマとするイベントを開催する予定。

08 一般社団法人 大阪府農業会議

大阪府で防災協力農地の拡大と住民に理解を促進！

行政、関係機関・団体の皆さんへ…
防災協力農地登録制度を進めませんか？

★府内各地で取り組みが広がっています！

このリーフレットでは、既に取り組んでいる市町村の事例を紹介します

ぜひ、制度導入のご検討をお願いします
問い合わせ先：大阪府農業会議(06-6941-2701)



対面での聞き取り調査の様子

都市農業地域共生推進等支援事業

01 地域支援型

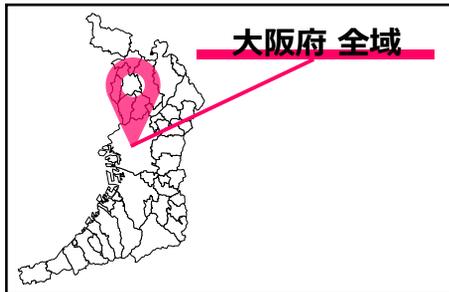
防災協力農地の導入



導入事例を誌面に掲載



寝屋川市防災協力農地の様子



事業の背景

<現状>

府内農地面積は1万2,823ha（2018年）。市街化区域内農地は3,335haで、そのうち生産緑地は1,927haとなっている。

<課題>

- 府内43市町村のうち、防災協力農地に取り組むのは12市町と3割程度にとどまっている（2019年）。
- 大阪府内農地は防災空間等の多様な機能を有しているにもかかわらず、府民に十分に認知されていない。
- 既に同制度を導入した地域においても、防災協力農地の登録が進まないケースが散見している。

取組概要

◆実施体制

府内の市町村、農業委員会、JA等の農業関係団体とのネットワークを生かした体制により、防災協力農地の推進及び府民への都市農地の防災機能の理解醸成に取り組む。

◆取組内容・効果

- 府内で防災協力農地制度についてヒアリングを行い、先進的に取り組んでいる6市の導入の経過や制度の概要、課題などを取りまとめた資料を作成。
- 防災協力農地の受益を受ける地域住民を対象に、都市農地における防災機能について情報提供を行うとともに、対面での聞き取り調査を実施。

09 大阪府摂津市

摂津市で防災協力農地の看板を設置し市民へ周知！



摂津市防災協力農地標識設置の様子

都市農業地域共生推進等支援事業

01 地域支援型

防災協力農地の導入



事業の背景

<現状>

- ・大阪府摂津市は、淀川と安威川に挟まれた水害に弱い地域。
- ・阪神・淡路大震災を契機に、地域防災計画に基づき、安全・安心のまちづくり、防災機能の整備を推進。さらにこれらを強化するため、農地の持つ防災面での機能に着目し、令和2年度に「防災協力農地登録制度」を制定。
- ・現在、市内で35箇所、4.4haの防災協力農地が登録されている。

<課題>

- ・市内の農地を守るとともに、市民に「防災協力農地」を示し、認知してもらうための対策を講じる必要がある。

取組概要

◆実施体制

摂津市防災危機管理課と産業振興課が連携し、農地所有者へ防災協力農地の登録勧奨を実施。また、案内標識を設置し防災機能の地域住民等への周知を図る。

◆取組内容・効果

- ・令和4年4月時点で登録されていた35箇所、4.4haの農地所有者に対し、案内標識の設置可否についてヒアリングを実施。設置可と回答があった27箇所、3.2haの農地に、防災協力農地案内標識を設置。
- ・令和5年3月31日時点で登録されている農地は41箇所、5.1haに増加している。

10 小田急電鉄 株式会社

座間市で地域循環モデルを目指す！



フードサイクルプロジェクトのスキーム

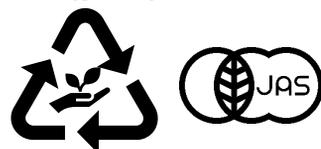


LFCコンポストバッグ

都市農業地域共生推進等支援事業

02 モデル支援型

有機農業等の普及



参加者の中間交流会の様子



各世帯から集めた堆肥の管理の様子



協力農家の圃場にて施肥する様子

神奈川県 座間市



事業の背景

座間市は神奈川県のおよそ中央に位置し、市域は17.57km²人口約13万人の市である。市街化調整区域のほぼすべてが農業振興地域であり、農地面積は田が88ha、畑が126haの計214 haである。

<現状>

小田急電鉄と座間市では、令和元年からごみ収集運搬の最適化システム「WOOMS」の実証実験を開始。収集運搬の効率化によって生まれた余力により剪定枝のリサイクルに取り組み、年間約1,400トン（2021年度）の廃棄物の削減に繋がった。

<課題>

ごみの削減・資源循環に対する住民理解の増進と有機農業の推進

取組概要

◆取組内容・効果

- ・座間市内の600世帯へ生ごみを手軽に堆肥化する「LFCコンポスト」を無償貸与し、各家庭から排出される焼却ごみを削減。
- ・各家庭からごみ集積所へ出していただく「出来上がり堆肥」を、座間市の資源回収車で効率的に回収する。
- ・回収した堆肥を、第三者機関で品質調査したうえで、市内の農家で農作物の栽培に利用し、できた農作物を市民に販売する。
- ・焼却ごみの削減と、都市農業の振興による循環モデルを形成する。
- ・2024年3月末までに計600世帯から出る約20トンの生ごみを削減し、約2トンのコンポストとして再生する計画。

11 株式会社 エマリコくにたち

有機農業の担い手と都市農業を支える都市住民の育成を目指す！



みどり戦略TOKYO農業サロンの様子



イートローカル探検隊の様子

都市農業地域共生推進等支援事業

02

モデル支援型

農村ファンの拡大



食育BOX「農くる！」(野菜の解説・野菜の生産者・レシピ)



マルシェの様子

東京都 多摩エリア



事業の背景

<現状>

- ・多摩地域では、生産緑地をはじめとした都市農地が比較的残されている。
- ・行政や農業者は、都市農地維持に対する危機感が強い。
- ・また、多摩地域は地産地消が盛んで、地域住民の都市農業の認知度が高いため、高齢者を中心とした援農ボランティアも多い。

<課題>

- ・みどりの食料システム戦略で有機農業の拡大がうたわれているが、農業者は日々の農業経営に追われ、持続可能な農業や有機農業について、学習する時間がない。
- ・農業者は「東京都GAP」などの認証を取得しているが、農産物の販売価格に転嫁できていない。

取組概要

◆実施体制

多摩地域の農産物の流通・販売を行う「(株)エマリコくにたち」と青壮年農業者、農業体験活動を行うNPO等が連携して事業を実施。

◆取組内容・効果

①みどり戦略TOKYO農業サロン

循環型農業、有機農業等に関心のある農業者が先輩農業者の圃場で実習しながら、技術を学ぶ。

②イートローカル探検隊・マルシェの開催

座学講習や名人農家での援農を通じて、食に関心のある都市住民を都市農家の「中間支援層」として育成し、マルシェのボランティアにも参加。

③子ども向け食育BOXの販売・送付

食育宅配BOX「農くる！」は、親子で楽しみながら地元の農業や野菜について学べることを目的に開発し、小さな子どもがいる家庭に宅配便にて送付。

12 農と親しみ江東区の共生社会を考える協議会

豊洲エリアで子どもたちが農に触れあう空間を創設！



農園設置場所となる東京ガス「がすてなーに」の様子



廃材を活用したレイズドベッド10台を設置



「八コ畑」のロゴ



コミュニティによる種植え・苗植えの様子

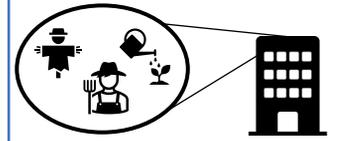


イベントでのワークショップの様子

都市農業地域共生推進等支援事業

03 都市農地創設支援型

農的空間の創出



東京都 江東区



事業の背景

<現状>

近年、豊洲地区を中心に開発がすすみ、高層マンションが林立する都市景観となる一方で、江東区では「みどりの中の都市」をイメージした「CITY IN THE GREEN (CIG)」によるみどりのまちづくりをすすめている。

<課題>

- ・区民農園が不足しており、サポート付きの民間運営農園は高額である。
- ・区内には身近な農地がなく、農に触れる機会が限定的である。
- ・農への関心づくりや組織体制が十分でない。

取組概要

◆実施体制

江東区民による地域協議会が主体となり、すでに都市空間における農地創出等の先例事例を持つ専門家や団体に加え、地域のコミュニティを持つ団体や、農業従事者等と協力する。

◆取組内容・効果

- ・農的空間の創出に関する勉強会や関係者との合意形成を目的とする話し合いの場等を設置する。
- ・マルシェやイベント出店を通して都市住民の農業への関心やニーズを把握するための調査を行う。
- ・子育て世代を中心に取組の核となる区民サポーターを募集し、コミュニティの体制強化を図る。
- ・都市住民や子どもが農に触れる農園「八コ畑」を設置し、農園の形態や管理の仕組み等について実証を行う。

● 地域が抱える問題を解決したい！



一般財団法人 都市農地活用支援センターが実施する
「**農**」の機能発揮支援アドバイザー派遣事業」を活用してみてください！

▶▶▶ 取組内容・連絡先の詳細は、**P20**に記載しています！

point

- ✓ 全国の都市部を中心に、都市農業に関する様々な分野の専門家を派遣
- ✓ 農業者や地域住民、企業、自治体など、幅広い方からの申し込みを受入
- ✓ 派遣に係る費用は、原則無料（専門家の謝金、旅費はセンター負担）

● 都市農業に関する情報を知りたい！



東武トップツアーズ 株式会社が運営するSNSアカウント
「**まちなか農業ひろば**」をフォローしてみてください！

▶▶▶ 取組内容・SNSアカウントの詳細は、**P21**に記載しています！

point

- ✓ InstagramやLINEのSNSアカウントから、都市農業の魅力を発信
- ✓ 都市部のマルシェや収穫体験等のイベント情報を周知

● 都市農業の交付金を活用したい！



農林水産省ホームページに掲載されている
「**動画**」、「**パンフレット**」をご確認ください！

▶▶▶ 取組内容・連絡先の詳細は、**P22**に記載しています！

参考1 一般財団法人 都市農地活用支援センター



専門家を派遣し地域が抱える課題を解決！

2023(令和5)年度
都市における「農」の多様な機能を発揮した取組を支援するための
都市農業やまちづくりなどの
専門家を派遣
します！
無料

取組みテーマの例

- 市民農園の設置、コミュニティ菜園の取組み
- 農業体験農園・観光農園の開設、CSAの取組み
- 地域における食育・環境教育
- 地産地消の取組みやマルシェ・収穫祭等のイベント
- 園芸福祉で高齢者の生きがいづくり
- 障害者就労と農業のマッチングで6次産業化
- 農業と企業等との連携に向けた取組み
- 防災協力農地の導入に向けた取組み
- 新しい都市農業・都市農地制度の勉強会
(都市農業振興法、生産者制度、貸付制度、農地取得法等を中心)
- 宅地の農地転換や農的空間創出の取組み
- 農を活かしたエリアマネジメントの取組み

現地や
オンラインで
アドバイス！

申込受付 2024(令和6)年 2月29日まで
事業主体 一般財団法人 都市農地活用支援センター
<http://www.tosinouti.or.jp/>

専門家派遣事業のリーフレット



専門家派遣の様子

都市農業機能発揮支援事業

都市農業アドバイザー
の派遣



取組概要

◆取組内容・効果

- 全国の都市部を中心に、都市農業に関する様々な分野の専門家派遣事業を実施し、都市農業の円滑な経営の実現や、都市農業に関わる地域のコミュニティ維持等を推進する活動を支援。
- また、専門家の派遣結果等を踏まえ、地域の抱える課題や制度的な課題等を類型化し、その解決手法等を取りまとめた資料を作成・配布することで、都市農地の多様な機能を発揮・活用する様々な取組を周知。
- 令和4年度は、小中学校や市民農園など、累計169箇所、延べ181名の専門家を派遣し、多くの都市住民に都市農業の多様な機能を周知するとともに、地域課題の解決を図った。

専門家派遣事業

都市農業の多様な機能（産直、防災、環境、農業体験、学習、交流等）を発揮した取組を支援するため、都市農業者や市民等のみなさんからのご依頼（申込）により、都市農業・まちづくり等の専門家を派遣し、勉強会等での説明やアドバイスを実施。詳細については、以下の連絡先まで。

連絡先

一般財団法人 都市農地活用支援センター 相談部
<https://www.tosinouti.or.jp/shientaisaku/>
〒101-0032
東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル4F
TEL:03-5823-4830 / FAX:03-5823-4831
E-mail:adviser@tosinouti.or.jp

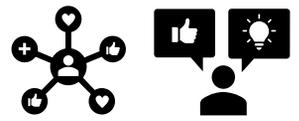
参考2 東武トップツアーズ 株式会社

都市農業の魅力イベント・SNSで情報発信！



都市農業機能発揮支援事業

都市住民への理解醸成・効果的な情報発信



SNS(Instagram,LINE)での情報発信



マルシェやワークショップイベントの様子



農業体験ツアーの様子



取組概要

◆取組内容・効果

- 令和3年度に「まちなか農業ひろば」公式LINE・Instagramを開設し、都市農業の魅力を広く発信・周知する取組を実施。都市農業のイベント情報、生産者へのインタビュー、都市農業野菜を使ったレシピ、野菜の豆知識等、都市農業に関する最新情報を紹介。
- 池袋駅構内のイベントスペースを活用し、生産者の生産に対するこだわりや想いを直接聞くことができるマルシェや、プロの農家による、野菜の梱包から販売までの職業体験ができる親子向けのワークショップ等のイベントを実施。
- JA東京中央会青壮年部と連携し、東京都内の畑で土に触れ、野菜について知ることができる農業体験ツアーを実施。

SNSを活用した情報発信

〈まちなか農業ひろばについて〉

「まちなか農業ひろば」公式LINEやInstagramを運用し、都市農業の魅力を広く発信・周知する取組。今年度からは新たにポータルサイトを開設し、SNSアカウントへの遷移に加え、今後はイベント情報、生産者のインタビュー、様々な企業や団体の活動内容の紹介等、都市農業の最新情報を集約していく。

アカウントは以下のURLから。

QR codes and links for social media accounts:

- Instagram: https://instagram.com/machino_hiroba?igshid=MzNiNGNKZlQ4Mg==
- LINE: <https://liff.line.me/1645278921-kWRPP32q/?accountId=115kblyj>
- Portal Site: <http://machinou-hiroba.com/>

参考3

交付金に関する資料について

都市農業共生推進等地域支援事業のメニュー別の支援内容、交付対象等については、以下の資料にて紹介していますので、そちらをご参照ください。

動画

都市農業共生推進等地域支援事業の制度内容について、メニュー別に動画で紹介しています。

事業全体について



Webサイトはこちらから！

<https://www.youtube.com/watch?v=-IdAogwMpkU>



地域支援型について

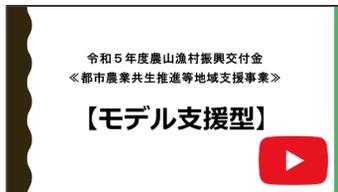


Webサイトはこちらから！

<https://www.youtube.com/watch?v=J7r6fuQQ14s>



モデル支援型について



Webサイトはこちらから！

https://www.youtube.com/watch?v=zIdYI1p1_f0



都市農地創設支援型について



Webサイトはこちらから！

<https://www.youtube.com/watch?v=JH4cs1Xs8FU>



パンフレット

都市農業共生推進等地域支援事業の支援内容、交付額の上限、選定要件等について、記載しています。

Webサイトはこちらから！



https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/hojo_gaiyou.html#zigyou_syousai



都市農業の補助事業に関する情報は、
農林水産省ホームページにも掲載しています。

✓ **Webサイトはこちらから！**

[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/
tosi_nougyo/hojo_gaiyou.html](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/hojo_gaiyou.html)



問い合わせ先

農林水産省 農村振興局 農村政策部 農村計画課 都市農業室
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
TEL : 03-3502-8111 (内線 : 5445)